

AI特許 初級編 **STEP 2**

発明になり得る箇所を概観する(特許事例付き)



特許業務法人

HARAKENZO
WORLD PATENT & TRADEMARK

副所長 IoT×AI支援室長 弁理士

村上 尚 (むらかみ たかし)

本日取り上げるAIの種類

- 機械学習

- ・教師あり学習

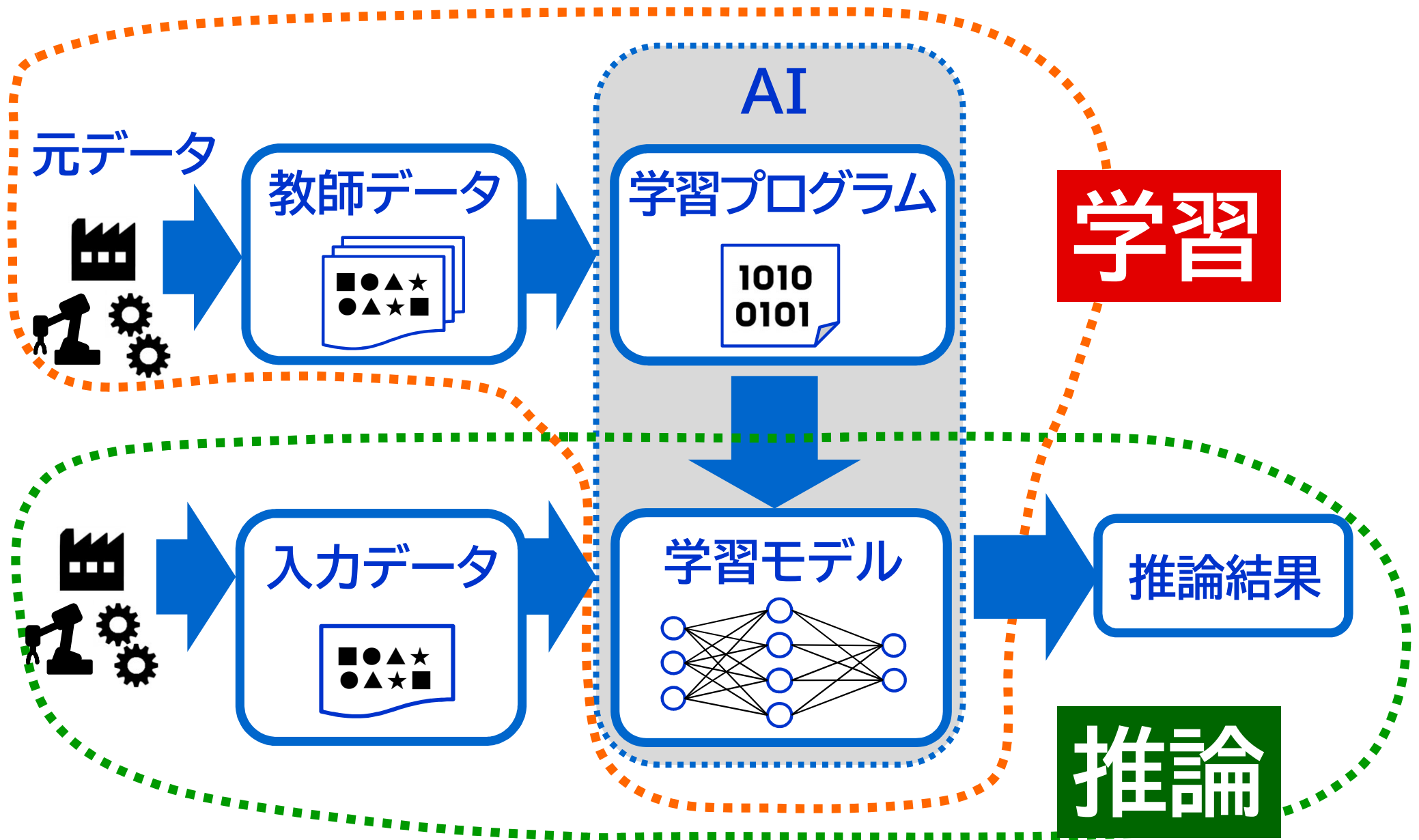
- ・教師なし学習

- ・強化学習



- ルールベース(エキスパートシステム)

「教師あり学習」 処理の流れ(超概要)



例示／特許事例

日本特許公報を広く調査し、比較的
分かりやすい事例をピックアップしました

入力側 教師データの作り方

1	出現頻度が高いデータのみ用いる	第*****号	電気
2	特徴を揃えて後続処理を容易化	第*****号	化学

出力側 推論結果の使い方

3	AIの推論結果を適宜修正する	第*****号	機械
4	推論に寄与したデータを活用する	第*****号	医療

以下省略